都市デザイン・まちづくり特論

真野洋介

日本の都市の特質

震災や戦災など、大規模災害からの復興期に
都市空間のシステムをつくりかえてきた

1920年代　（関東大震災）
1945年～　（戦災）
1960-70年代　（高度経済成長／オリンピック）
1980-90年前半　（バブル経済）
1995年　（阪神・淡路大震災）

継承されたもの／されないもの
時代背景を映し出す

都市空間デザインの特質

道路や市街地再開発のスピードが遅い反面
災害からの復興期の再生スピードは非常に速い
→ダイナミック（動的）なデザインプロセスが発生

市街地更新（建てかわり）スピードは欧米に比べ速い

都市計画やまちづくりへの疑問は常にある

- ハワード「田園都市」への疑問
- コルビュジェ「垂直田園都市」
（高層建築とオープンスペース）への疑問
- 都心と郊外／都市と農村モデルへの疑問
- 町並み／近代建築保存運動への疑問
- 住民参加型まちづくりへの疑問
- 真鶴町「美の条例」や景観権への疑問

都市と建築の関係は
明らかにうまくいっていない

・都市計画の失敗／無秩序な開発・市街地形成
・規制緩和×コントロール（どっちもどっち）
・箱モノ・インフラばかりへの公共投資
・ひとりよがりな官僚・行政・建築家・プランナー
・私有財産保護と個人のエゴは紙一重
・都市に関する社会的コンセンサスをつくる土壌がない

都市デザインとまちづくり？

「都市計画」と「まちづくり」の関係

	都市計画	まちづくり	次世代のデザイン
ヴィジョン	成長する都市	持続可能な都市	?
内容	広域都市基盤整備 ニュータウンの開発 大規模開発 物的計画（ハード）	住環境整備 既成市街地の修復型整備 地区計画・街区整備 物的＋社会計画（ソフト）	
主体	国家・都道府県	市町村・ＮＰＯ・市民	
プロセス	トップダウン	ボトムアップ	
市民参加	部分的市民参加	行政と市民の協働	
市民活動	陳情請願型 反対運動	学習提案型 日常的市民活動	
専門家	都市計画家 建築家 デザイナー	まちづくりコーディネーター 都市デザイナー ファシリテーター	
キーワード	垂直 縦割り 中央集権 効率	水平 パートナーシップ 自治 分権、公正、合意	

卯月盛夫「都市計画」と「まちづくり」の概念比較より

都市計画・都市デザインの矮小化

×

まちづくりの肥大化

いくつかの疑問

都市計画とまちづくりは対立する概念なのか？

まちづくりは万能で、都市計画をカバーするものなのか？
「まちづくり」の多様化と肥大化
→ダムや空港、政治活動まで「まちづくり」を標榜している

そもそも、単純なマトリクスで整理することに意義はあるの？
→言葉あそび？、でも分かりやすさは重要

まちづくりはことばで説明できる？

「まちづくりとは、地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近な居住環境を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、「生活の質の向上」を実現するための一連の持続的な活動である」

→「まちづくりの方法」より

都市デザイン（アーバン・デザイン）とは

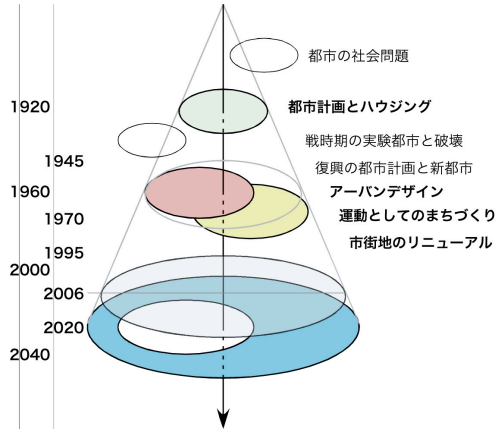
都市計画の本来の意味からの乖離を危惧して、1960年代のデザイナーたちが名付けた言葉

「今日、私たちが知っているアーバン・デザインという用語は、かつて都市計画がそうであり、現在のプランニングがそうではないところのものに努力を集中することを正当化するために、私を含む何人かが、近年、発明した用語なのだ」（アラン・B・ジェイコブス・・・元サンフランシスコ都市計画局長、UCバークレー校名誉教授）

都市計画→都市デザイン／まちづくり→その先にあるもの

・名前はまだない
・領域がまだ定まっていない
・職能もまだ定まっていない

架空のパースペクティブを描いて考える



都市計画専修学科・コースの誕生

建築・土木学科からの分離
他学科との融合

東京大学工学部都市工学科　　（１９６２年）
早稲田大学大学院都市計画コース（１９６６年）
東京工業大学工学部社会工学科　（１９６７年）
など

他分野とのクロス・総合化は果てしない

都市社会学
経済学
心理学
社会福祉
公共政策
芸術
・・・

次世代の方法論に向けての基本的な考え方

１）次世代のヒントはこれまでの中にある
２）これまでの考え方を徹底的に疑う／壊す

・都市計画の原点の見直し
・これまでの取り組みの検証（古典の見直し）
・新たな技術、方法、考え方を加え、
　枠組みとして再構築する

この講義の鍵となる考え方（１）

１）同時代性と固有性

２）連続と不連続
　不連続統一体

３）ストーリー・シナリオ

４）批評と仮説・実験

時代同士の関係ー行ったり来たりする

再評価、新たな見方
直線的な連続ではない連続な時代

中世都市社会
　カミロ・ジッテ、マンフォード、網野善彦

封建制都市社会
　城下町

１９世紀バロック都市計画
　オスマンのパリ改造

1920年代と60年代ー拡張の中での実験
　都市型住宅のデザインの転換、チームＸ

同時代性と連続・不連続

独自の解釈と地域性が加味される
当初の理念が薄らいで本質を失う

・今和次郎とパトリック・ゲデス

・同潤会アパートとドイツ・ジードルンク

・ラドバーンと千里ニュータウン

ストーリーとシナリオ

大まかな流れは確実に存在するが、一続きでもないし、一本だけの流れでもない

歴史家はストーリー／マニアックに走りがち
・巨匠の英雄化
・再評価された人物、手法の肥大化・伝説化

体系化や抽象化がまちの魅力を失わせる

この講義の鍵となる考え方（2）

1）住環境をベースとする

2）都市の形態と変容をふまえる

3）プロセスを重視する

デザインの枠組みの再構築へ

自分の考え方を持つことから、
共有できる考え方と方法論へ